九段

行分

一分行分

井出氏に

山口志郎

その思想や、さくさくとしてが、自分達と、大なりに、なりつながりをもつてゐると思はしる對象や、流動性や、その他様々の事情に依りて、常に全然、自分達とる對の主動に、もろくに、何等特殊しむの風なきを見る特、

誇りの崩壊から、うるに對して、何かしら、寄きゐ、非難や、制遏の声を浴びせかけなんとはうとしなつ、自分達の主義や、主張と、誇りに、制約に、誇りにもかかはらず、對立的なる場にある者に對しては、うるを、まもるべ、よりも、却つて、何さしなかれ、事柄をうるに、復讐にしさを感ずるやうなことは、さの中には隠れある。

前者の場合には、何のためにして、殺服してやりたいとか、味方、或は進んで仲間に引入れた